

# !!! 雨の降り方と水位情報

気象情報ではよく「1時間雨量 mm」という表現が出てきます。  
 そのときの雨の強さが具体的にはどのようなものなのか、どのくらいの水位になったら避難するのかイメージしてみましょう。



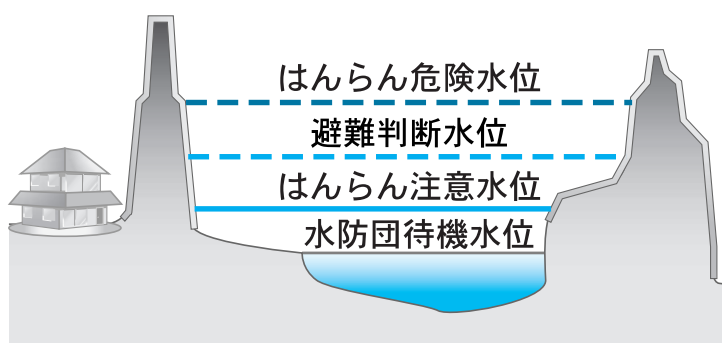
## 雨の強さと降り方 (気象庁資料を参考にして作成)

1時間雨量 (mm)	予報用語	人への影響	屋内 (木造住宅を想定)	屋外の様子	災害発生状況
10以上～20未満	やや強い雨	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	雨の音で話し声が良く聞き取れない		この程度の雨でも長く続く時は注意が必要
20以上～30未満	強い雨	傘を差していてもぬれる	寝ている人の半数くらいが雨に気が付く	地面一面に水たまりができる	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる
30以上～50未満	激しい雨			道路が川のようにになる	山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要 下水管から雨水があふれる
50以上～80未満	非常に激しい雨	傘は全く役に立たなくなる		水しぶきで辺り一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	マンホールから水が噴出する 土石流が起こりやすい 多くの災害が発生する
80以上～	猛烈な雨				雨による大規模な災害が発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要

## 水位観測所 水位情報 (-:水位未設定)

河川名	米代川					長木川		犀川	引欠川	下内川	
	下川沿	吉富士	扇田橋	扇田(大橋)	十二所	餅田	有浦	二井田	小袴	松峰	白沢
はんらん危険水位	-	-	-	4.00m	5.30m	3.50m	3.70m	-	-	3.40m	1.50m
避難判断水位	-	-	-	3.70m	5.00m	3.00m	2.80m	-	-	2.80m	1.20m
はんらん注意水位	2.00m	3.55m	2.30m	3.50m	3.00m	2.00m	2.00m	2.00m	2.00m	1.60m	1.00m
水防団待機水位	1.50m	2.70m	1.70m	2.70m	2.50m	1.20m	1.20m	1.50m	1.50m	1.30m	0.80m

## 水位観測所横断面図



- - - - **はんらん危険水位**  
 避難判断水位を上回り、はんらんがいつ発生してもおかしくない水位。
- - - - **避難判断水位**  
 はんらんに警戒し、避難を判断する水位。避難に当たっては、市長が発する避難情報に注意。
- **はんらん注意水位**  
 はんらんの発生に注意し、水防団(消防団)が出動する水位。
- **水防団待機水位**  
 水防活動のため、水防団(消防団)が待機する水位。